



EdFuture

NPO 法人
EdFuture

2024年度 年次報告書

一歩先の「自分へ」

2025年8月発行

目次

01

代表挨拶

02

NPO法人EdFutureについて

03

2024年度 活動内容（ハイライト）

04

2024年度 活動内容（詳細）

05

財務状況

06

感謝と謝辞



01. 代表挨拶



2024年度も、EdFutureは大きな一歩を踏み出すことができました。これまで続けてきたサンフランシスコプログラムに加え、今年は新たにボストンプログラム、そしてオンラインでの「グローバルプロジェクト」をスタートさせ、多様な形での学びの場を広げました。その結果、EdFutureプログラムの参加者は99名にのぼり、大学生や社会人も共に学ぶ新たな体制を築くことができました。

さらに、運営に携わるスタッフや大学生インターンの関わりも増え、EdFutureを支える輪が着実に広がっています。一人ひとりの声に耳を傾けながら、共に歩む仲間がいることのありがたさを、日々実感しています。

しかし、何よりも大切にしているのは、プログラムに参加してくれた生徒たちが、それぞれのペースで満足や手応えを感じ、視野を広げ、可能性を信じて進んでいけることです。そのためにも、どんな規模になろうとも「ひとり」と向き合う姿勢を、決して手放すことなく続けていきたいと願っています。

2025年度には、さらに新たなプログラムも実施予定です。挑戦の中で立ち止まり、学び直しながら、また一歩ずつ進んでいくつもりです。これからもEdFutureをどうぞよろしくお願いいたします。そして、この度から正式な寄付の受付も開始いたしました。私たちの取り組みに共感し、応援してくださる皆様の温かなご支援を、心よりお待ちしております。

中村 柊





02. NPO 法人 EdFuture について

VISION

誰もが「自分らしく一歩を踏み出せる」社会へ

MISSION

第三の教育を通して、“挑戦する機会”と“安心できる繋がり”を届ける。

03.

2024年度活動内容

ハイライト

グローバル プロジェクト

2024年7月～10月、EdFuture初のオンライン探求型プログラムを開催しました。毎回アメリカ大学在卒のゲストと直接対話しながら世界への視野を広げ、デザイン思考を活かした課題解決型プロジェクトに挑戦しました。最終回のExpo Dayでは、全国から集まった43名の参加者が熱気あふれるプレゼンで成果発表を行いました。

不登校支援

「不登校経験者と保護者のおはなし会」を約3カ月に1回のペースで開催しました。対面とオンラインを併用することで幅広い参加が可能となり、これまでに保護者や学生など約100名が参加しました。互いに経験を共有し、理解や安心感を深める場となりました。

ワールド寺小屋 (サンフランシスコ)

2025年3月に、全国の高校生が参加できる留学プログラムを実施しました。サンフランシスコへ10日間訪れ、いつもと違う環境、文化、言語、食事、マナー、価値観を通して自分について再発見しました。

ワールド寺小屋 (ボストン/NY)

2025年3月に、全国の高校生が参加できる留学プログラムを実施しました。ボストン・NYに10日間訪れ、いつもと違う環境、文化、言語、食事、マナー、価値観を通して自分について再発見しました。

04-1. グローバルプロジェクト

1) プログラム概要

① 概要

スタンフォード・ハーバードの在卒者をゲストに迎え、自己分析や課題解決のプロセスを学びながら、デザイン思考を取り入れた個人プロジェクトに取り組みました。全5回のセッションを通じて、興味関心の深掘りから課題発見、アイデアの創出、プロトタイプの実行、検証を経て、最終回「Expo Day」ではプロジェクトの成果を発表しました。

② 研修全体の目的

- 自分の身近にある興味・関心のあるトピックや問題意識を深掘りし、自ら行動することを通して、課題解決への関わり方を体験する。
- プロジェクトを設計する際に、日本だけでなくグローバルな視点を取り入れ、自走する力を身につける。



2) 研修の実際

① 実施日程：

- 第1回：2024年7月28日（日）
- 第2回：2024年8月11日（日）
- 第3回：2024年8月25日（日）
- 第4回：2024年9月16日（月）
- 第5回：2024年10月6日（日）
- 最終回 Expo Day：2024年10月27日（日）

② 実施方法：

全てオンライン開催

③ 参加者：

- 全国の高校生・大学生 43名

④ 事後アンケート

- グローバルプロジェクト全体の満足度
(5段階)

○ 4.76



参加者の声

参加者A

いろんなゲスト、スタッフ、参加者、そしてこのプロジェクトにかかわらなかったらできなかったであろう活動、本当にたくさんの経験を積むことができました。どうやってしよう、活用しようか、頭をフル回転させる感じがとても楽しかったです。それぞれの発表を聞きながらノートにいろいろメモってみて、ノートから溢れそうなほど熱意と希望とやる気に満ちた、言葉の一言一言に身震いするほど楽しかった。

参加者B

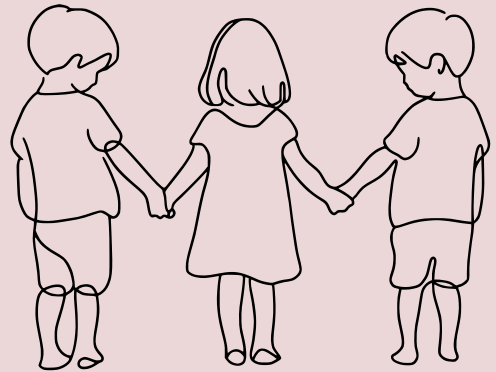
- 企業というすごく大きい存在へのリーチアウトという、一人だったら絶対にできない、しないことをプロジェクトの一環とすることで、自分でも色々な人にインタビューできたり、行動することができたし、海外の有名大学に進学した、海外留学したという滅多にいない方々からお話を聞くことができた。



04-2. 不登校支援

不登校経験者×保護者のおはなし会

不登校への理解の促進と保護者への精神的支援を目的として実施しました。不登校経験者の実体験を聞くことで、「不登校＝将来が閉ざされることではない」と保護者に理解してもらい、立ち直った一つのモデルケースとして参考にいただきました。当事者の語る当時の想いや、支援を受けてどう感じたかといった声は、現在不登校の子どもへの理解や対応のヒントとなります。



本プログラムでは前半で不登校経験者が体験談を共有し、後半で不登校の子どもを持つ保護者同士が情報交換会を行いました。また、不登校に関心のある支援者等も参加も可能とし、その場合は支援者同士で意見交換の場を設けました。2024年度は、3～4カ月に1回の頻度で5月、9月、10月、12月、3月の全5回実施しました。



04-3. 第3回ワールド寺子屋

1) プログラム概要

① 概要

2025年3月に、全国の高校生が参加できる留学プログラムを実施しました。サンフランシスコとボストンへ10日間訪れ、いつもと違う環境、文化、言語、食事、マナー、価値観を通して自分について再発見しました。

参加者は各10名で、全国各地から多様なバックグラウンドを持つ高校生が参加しました。

② 目標と目的

プログラムの目標は以下です。

1. 現地の高校での様々な活動や、大学や世界の最先端機関の訪問を通じて、海外文化と起業文化などを学ぶ

2. 日本と文化や歴史が全く異なるアメリカを体験することで、自身の考え方や価値観を広げる

このプログラムは「現地の高校での活動を中心に、大学やスタートアップ企業を訪問し、海外文化と起業文化を学ぶこと、日本と文化や歴史が全く異なるアメリカを体験することで、考え方や価値観を広げる」を目標に実施しました。

2) 事前研修

① 概要

本プログラムでは、海外での学びをより充実したものとするため、渡航前に事前研修を実施しています。

1. 個人プロジェクトの推進

参加者はそれぞれの関心や課題意識に基づき、個人プロジェクトに取り組みます。自らのテーマを深掘りすることで、現地での学びをより意味のあるものとする準備を行います。

2. 参加者同士のつながりの構築

渡航前から同じ派遣先を目指す仲間と共に学び合うことで、信頼関係を築きます。この関係性は、現地においても支え合える「チーム」としての基盤となります。

3) 留学前のサポート

参加者の皆さんが安心して現地派遣に臨めるよう、出発までの期間中、以下のようなサポートを提供します。

1. 1対1で相談できるチャットサポート

2. 事前研修に関する個別フォロー（1on1）



サンフランシスコ（高校生）

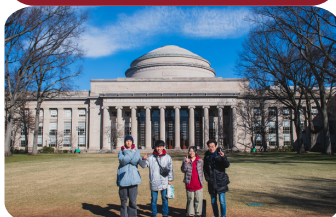
10日間のプログラムスケジュール

	3/8	3/9	3/10	3/11
				
午前	成田発	サンフランシスコ フィールド ワーク	授業	授業
午前	SF到着		バディと行動	バディと行動
	3/12	3/13	3/14	
				
午前	スタンフォード 訪問	授業	Google訪問	
午前	バディと行動	バディと行動	Apple Park 訪問	
	3/15	3/16	3/17	
				
午前	自由行動	サンフラン シスコ発	羽田着	
午前	フェアウェル パーティー			



ボストン・ニューヨーク（高校生）

10日間のプログラムスケジュール

	3/19	3/20	3/21	3/22
				
午前	羽田発NY着	ニューヨーク フィールドワーク ex...国連	ボストンへ 移動	ハーバード キャンパス ツアー
午後	ニューヨーク フィールドワーク	コロンビア大学 自由の女神 タイムズスクエア	自由行動	
	3/23	3/24	3/25	
				
午前	マサチューセッツ 工科大学 キャンパスツアー	授業	授業	
午後	Vermontへ バディと初対面	バディと行動	バディと行動	
	3/26	3/27	3/28	
				
午前	Vermont フィールドワーク	ボストン出発	羽田着	
午前	フェアウェル パーティー			



大学生, 社会人 向けにも開催

大学生・社会人プログラムでは、参加者をアメリカのシリコンバレーおよびボストンに派遣しました。同日程で現地に派遣される日本の高校生と共に活動し、高校生が多様な文化や人との関わりの中で成長していく姿を現地スタッフとして見届けながら、グローバル教育の在り方や日本の教育の未来について考えるきっかけを得ました。さらに、ハーバード大学やスタンフォード大学の教育大学院生との交流を通じて、参加者が人脈を広げ、視野を拡張する機会となることを目的としました。

また、大学生や社会人が自らの探究や学びにより多くの時間を充てられるように設計されています。宿泊はスタッフと同じ宿泊先で生活を共にし、現地高校の複数校を視察するとともに、教育大学院での体験や現地教員との意見交換を実施しました。



これにより、日本とアメリカの教育の違いや自身の課題意識について深く考える機会を持つことができました。自由行動の時間を多く設け、自らアポイントを取り、施設訪問やインタビューを行うなど、参加者が自分の関心や課題に基づいて主体的に行動できるようにしました。

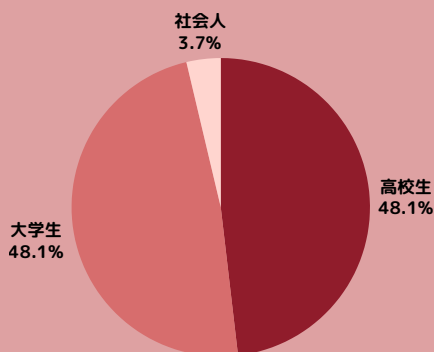
さらに、大学生や社会人がスタッフと共にプログラム運営にも携わった点は大きな特徴です。現地でスタッフを支援し、振り返りのファシリテーションなどを担当することで、プログラムを「つくる」経験を積む機会にもなりました。その後、実際にスタッフとして本格的に加わる参加者も現れ、EdFutureの活動基盤を広げる成果につながりました。



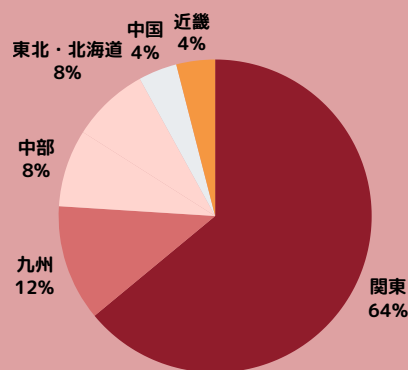
数字で見るワールド寺子屋

Q.どんな人が参加してるの？

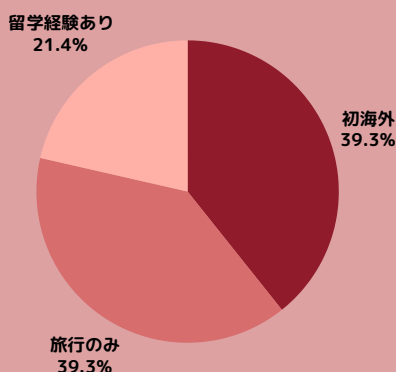
【参加者の所属】



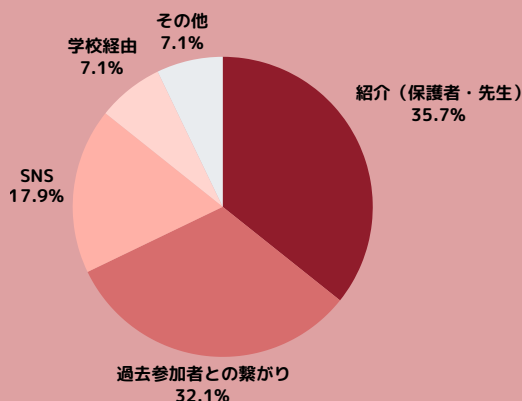
【参加者の参加地域】



【海外経験について】



【知ったきっかけ】



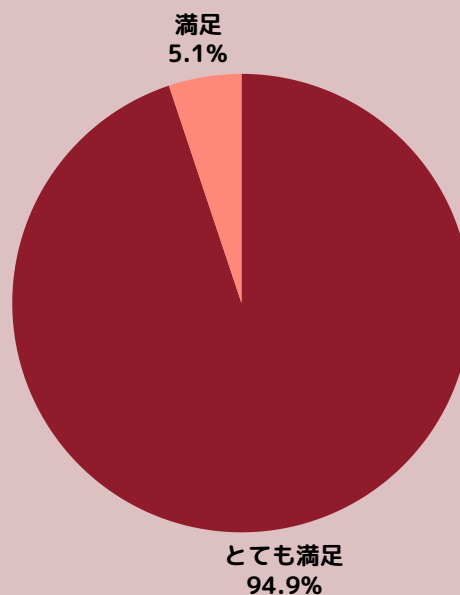
Q.全体の満足度は？

満足だった点

- 自己成長の実感：価値観の変化、自信の獲得、理想像への前進
- 人とのつながり：仲間・スタッフとの深い信頼関係、安心できる対話
- 探究の深化：リーチアウトを通じた学びとテーマの変化
- 異文化体験：アメリカ文化との出会い、視野の広がり
- 構成の丁寧さ：研修～帰国までの一貫した設計と手厚いサポート

改善点

- 一部スケジュールの急な変更
- 研修の情報量が多く、キャッチアップが難しい面
- リーチアウトの難しさ（テーマ設定や進行）
- オンラインと対面の関係構築に差があった

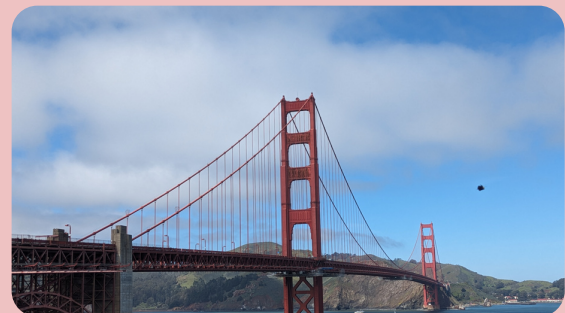


Q. 保護者から見た参加者の帰国後の変化



- 自己理解と自己鍛錬の意識が芽生え、自ら努力を継続する姿勢が見られました。
- 以前よりも自信を持って人と接するようになり、オープンマインドで人との関係を築けるようになりました。
- 自分の意見をしっかり伝える力がつき、他者の話を丁寧に聞く姿勢も身につけました。
- 探究心が高まり、海外への関心や将来の目標に向けての意識が明確になってきました。
- 世界観が広がり、ものごとの捉え方や視野が大きく変化した様子が見られました。
- 話すことが増え、出会った仲間やスタッフについて積極的に語るようになりました。
- 新しいことにも臆せず挑戦する姿勢が身につき、精神的にも落ち着きと強さを感じるようになりました。

- 海外での生活や多様な世代との交流を通じて、現実を見据える視点や柔軟性が養われました。
- 自らリーチアウトし、関心のある人に連絡や質問をするなど、主体的な行動ができるようになりました。
- 以前よりも笑顔が増え、生き生きとした様子で、日常生活にも前向きな変化が現れています。
- 留学経験を通して得た達成感や人とのつながりが自信につながり、次の挑戦への意欲が生まれています。
- 考えすぎず、自分の感じたことを自然体で表現できるようになり、自分らしさを大切にするようになりました。
- 同じ志を持つ仲間との出会いが刺激となり、自分のやりたいことへの意志がより強くなったようです。
- これまでの生活では得られなかった経験を通じて、「自分には居場所がある」と感じられるようになりました。



参加者の探究について

MANA青山学院大学1年
留学先：SF

※プログラム参加当時



探究テーマ

日本にいる外国ルーツの子どもをサポートしたい

テーマを決めたきっかけ

私は小学生の頃にインド系ルーツの子が転校してきて同じ班になったのですが、日本語を全く喋れない彼と日本語しか話せない私たちでうまくコミュニケーションが取れず彼が寂しそうだったのが苦い思い出で、大学生になった今似たような子を少しでもサポートしてあげたいと思い、このテーマにしました。

私の探究の軌跡

留学前には、在日外国人をサポートする会社の方、公立中学校の先生、日本に留学しにきていた友達にリーチアウトしました。その後は大学で似たような活動をしている団体にお邪魔したりしました。

SFに留学に行っているときは、stanfordの生徒と日本の移民の仕組みについて議論をしたり、知り合いのアメリカに移住したお友達からも意見を募りました。

今はボランティアやこの探求で知り合った方の会社でインターンなどをさせてもらっています。

「チャンスが無駄にしない」

これは特にSFに実際に留学した時に痛感しますが、自分から行動しなければ何も始まりません！過ごしていく中でふとした時に会った人とコネクションを持つことができたり、出会いがさらなる出会いを呼んでくれたり、YES!と前向きに進む姿勢が何より大切だなと感じました。私も人見知りなので現地のバスで隣の人に勇気を振り絞って話しかけました。今年の8月からSFに1年間交換留学に行きます。今回のテーマとも関連する民族についてもっと学びたいと思っているのでEthnic studiesやcommunicationについて専攻しようと思っています！

KATSURA

ヤマザキ動物看護専門
職短期大学1年
留学先：BS/NY

※プログラム参加当時



探求テーマ

動物を科学で理解する？！動物福祉ってなに？

テーマを決めたきっかけ

皆さんは、「動物福祉」という言葉を知っていますか？

私は昔から様々な動物と暮らしてきた経験から、動物が大好き！動物看護の大学に通う中で、動物福祉という考え方に出会いました。動物福祉は科学的に動物の幸せを考えるもので、日本では「愛護」と混同されています。そんな現状を変え、海外のように動物先進国にしたい！という思いから、テーマを決定しました。

私の探求の軌跡

現地では、一人で動物保護施設を訪問したり、日本人が働いている馬の牧場に足を運び、法律の違いや、人々の動物に対する認識の違いをインタビューしました。実際に施設内の見学をしたり、ボランティアの多さや、動物への関心の広さを感じ、大きな学びと勇気をもらいました。アメリカがすべていい、と渡航前は思っていたのですが、そうではなく、風土や文化にあわせた動物との共生が必要なんだな、と感じました。また、中学英語すらまともにできない私でしたが、塾に通い始め、あとはパッションで突き進みました！英語できないし、、、そんな心配、行ってしまえば吹っ飛びます！！

「あなたの一步が、世界を変える。」

私はもともと、自分のやることに自信がなく、心の奥底でやりたいことに「やれない理由」を探していました。しかし、GP参加を通し、今の自分にできる精一杯は何か、他人と比べず、自分と向き合いました。英語もできない、動物に対する知識も乏しい、経験も人脈もないのに、海外に行くなんて！とビビり散らかしていました。しかし、踏み出すのもやめるのもすべて自分次第。誰にも強制されないからこそ、自分で決めて行動することが人生の道を切り開くこと。GP、そしてWTPを通して、私が大きく成長できたのは、これに気づけたことだと思っています。

RUKAつくば国際大学東風高等1年生
留学先：SF

※プログラム参加当時



探求テーマ

誰もが安心して自分らしく生きられる居場所を作る

テーマを決めたきっかけ

元々、サンフランシスコでのLGBTQ+コミュニティ形成に貢献してきた人々に話を聞き、将来自分にできることを探るつもりでした。しかし、実際にサンフランシスコに行ってみて、街の明るくオープンな空気や、そこで自分らしく生きる人々の姿に衝撃を受けました。そんな彼らの輝くような姿に、私も「自分らしさ」を大切に生きる勇気をもらい、ありのままの自分を生きることの素晴らしさを実感しました。私にとってのサンフランシスコやワールド寺子屋のような、自分らしく生きられる居場所を一人でも多くの人のために作りたい！という思いが留学を通して芽ばめ、このテーマのもと探究を行いました。

私の探求の軌跡

市内にあるLGBTQ+支援団体や、スタンフォード大学内のコミュニティスペース、留学先の高校のLGBTQ+クラブ(顧問の先生と生徒)にリーチアウトをし、「セーフスペースを作る上で大切なことは何だと思うか」という質問を中心にお話を伺いました。どの方も、よりよい社会を目指して尽力してきたことがお話からよく伝わり、私も社会を変えることを諦めちゃいけない！と実感するとともに、とても心強い気持ちになりました。

出発前は、専門的なトピックに関する英語での会話が不安でしたが、実際のリーチアウトでは自分が感じたこと、疑問に思ったことを全て相手に伝えることができました。「相手の話を理解したい」「自分の思いを伝えたい」という意志さえあれば、どんな状況でも会話はできるんだ！と気づき、外国語での会話に対する苦手意識が一気になりました。

自分の世界は、自分で変えられる。

私は昔から、人と自分を比べてばかりいました。常に誰かの目を意識して、誰かに合わせて行動して、自分らしさをずっと見失っていました。そんな私でしたが、この留学では、声を大にして「これが私だ！」と言えるほど、最高に私らしい日々を生きることができました。

それは、サンフランシスコの街やこのワールド寺子屋のコミュニティに、互いの違いを受け入れ、祝福してくれる人たちがいたからです。そんな環境や人々に出会えたこと、そして、「私は私のままでいいんだ」と気づけたことが、この留学を通しての最大の学びだと私は感じています。このプログラムに参加したからこそ、私は自分らしさを見つめなおすことができ、それを大切に生きる勇気と、自分自身への誇りを手に入れられました。今は、留学前の私には想像もできなかった景色が見えています。

ZENJI

千葉県立松戸国際高校2年生

留学先：SF

※プログラム参加当時



探求テーマ

どんな人でも1歩を踏み出すには、何が必要？

テーマを決めたきっかけ

正直、テーマを決めて活動すること自体、初めての経験でした。なので、自分が何をしたいのかが分からず、テーマ設定にはかなりの時間を費やしました。テーマが決まったきっかけは、ハワイへ留学をしに行った高校の英語の先生とのzoom。また、SFへの参加が決まった後、本当の興味関心を見つけ、活動しました。

私の探求の軌跡

G留学に行った先生にお話を伺いました。「学生では無い」という理由で申し込むことができない奨学金の団体が多かったそうで、出発の準備にとっても苦労をしたという話を聞きました。そこで、なぜ、こんなに素晴らしい人が支援されないんだ。と疑問を持ち、似鳥国際奨学財団にメールを送り、現状について、そして、若者個人個人ができることを回答して頂きました。

SFでは人の幸福度についてリサーチしました。現地の高校生133人に、アンケートを回答してもらいました。また、Google本社でも弾丸で声をかけることを決め、21人の社員さんに回答して頂きました。日本に戻ってからも活動を続け、同級生221人からの回答を集めました。全ての出会いに感謝です！

「なんでもいいから、やってみる」

とにかく、なんでもいいから新しいものに触れたり、新たな環境に身を投げ出してみると、自分の人生を変えてくれるきっかけになります。僕の場合は、それがGPです。やらない理由を探すより、迷ったらやってみるのがいい。その上で、自分が何をしたいかを考えると、それがより深まるような気がします。

2025 年度に向けて

参加者から見たワールド寺子屋の価値

- 1位 失敗を恐れずに挑戦できたこと
- 2位 多様性を体感できたこと
- 3位 海外での友達、人脈、コミュニティができたこと

第3回の参加者の声を
受けて、2025年度は
さらにパワーアップします！



1. 2025年3月にプログラムを実施予定

カリフォルニア・ボストンに加えアイルランドでの派遣も実施予定。高校生は20名募集、加えて大人・大学生も募集し、プログラム同行可能に。



2. 事前研修をより多くの人に受けれるような仕組みに
高校生・大学生約50人が対象。グローバルプロジェクトとして、ゲスト講師にハーバード・スタンフォード卒業生を招き、3ヶ月間実施。

3. Newsletterや最新情報を希望の方はこちらから登録



<https://forms.gle/7815vsUH7xizMYJK8>



05. 2024年度 活動計算書

	科目	(科目内訳)	金額(円)
経常収益	受取会費	正会員	20,000
	受取寄付金		2,123,431
	受取助成金	不登校支援事業	1,000,000
	事業収益	ワールド寺子屋事業	7,195,000
		U29コミュニティ事業	5,556
		不登校支援事業	26,606,00
	その他収益	受取利息	1,138
	経常収益 計		10,371,731
経常費用	事業費	業務委託費	3,130,000
		謝金	71,822
		印刷製本費	17,310
		会議費	257,941
		交際費	23,999
		旅費交通費	5,124,514
		通信運搬費	243,996
		消耗品等	108,280
		保険料	182,152
		支払い手数料	20,736
		雑費	82,929
	管理費	業務委託費	706,250
		印刷製本費	400
		会議費	2310
		旅費交通費	1399
		通信運搬費	183,777
		保険料	26,740
		支払い手数料	1,137
		雑費	20,869
	経常費用 計		10,256,857
	当期経常増減税		0
	当期正味財産増減額		114,874
	前期繰越正味財産額		1,594,929
	次期繰越正味財産額		1,480,055

受取寄付金

24年度は秋から本格的に寄付募集を開始し、半年間で40件以上の個人・企業様からご寄付を受けることができました。マンスリー・単発合わせてこれだけの額になり、感謝申し上げます。

事業収益

24年度は新たに開設したグローバルプロジェクトに加え、サンフランシスコ拠点だけでなくボストン・NYプログラムを増設し、一部参加費を設定しました。

業務委託費

24年度も本団体スタッフは全員本業と別で運営に携わっており、研修総括・広報・事務業務等に際して業務委託費をかけています。

旅費交通費

当団体の支出で一番大きい科目は旅費交通費です。高校生の渡航にかかる費用を減らすため、当団体が負担できるよう尽力しています。

通信運搬費

本団体はオフィスを持たず、事務所の維持費をかけていません。リモートでの会議のため、zoom等通信費がかかっています。

06. 感謝と謝辞

2024年度、EdFutureは数多くの挑戦と学びを経て、多くの成果を重ねることができました。

こうした歩みは決して私たちだけの力では成し得なかったものです。プログラムやイベントに参加してくださった皆様、ボランティアとして活動を共にしてくださった皆様、そして陰ながら支援してくださった多くの方々に、心からの感謝を申し上げます。

皆様からいただいた温かいご協力は、困難を乗り越える勇気となり、活動の質を高める確かな支えとなりました。生徒や学生たちが新しい世界に一步踏み出し、学びや経験を未来へとつなげていく姿は、皆様のお力添えがあったからこそ実現したものです。

EdFutureは、単なる教育プログラムを提供する団体ではありません。私たちの活動の一つひとは、「誰もが自分らしく挑戦できる社会をつくる」という思いに根差しており、その実現には皆様の存在が不可欠です。

これからも、いただいたご支援を糧に、さらなる挑戦を続けてまいります。どうぞ今後とも温かく見守り、ご協力いただければ幸いです。



CONTACT

NPO法人EdFuture

E-mail : info@edfuture2022.org

HP : <http://edfuture.jp/>